

**第 1 回 品川区教育振興基本計画策定委員会
会議録（議事要旨）**

日 時：令和 6 年 4 月 2 6 日（金） 9:25～11:07

場 所：品川区役所本庁舎議会棟 6 階第 1 委員会室

出席者：

委員	（出席委員） 樋口委員長、鞍馬副委員長、市川委員、松本委員、吉田委員、加藤委員、 伊藤委員、外山委員、江藤委員、宮崎委員、石黒委員、野口委員、 丸山委員、薄木委員 （欠席委員） 金子委員
事務局	伊崎教育長、米田教育次長、中島保育施設運営課長（子ども未来部長代理）、 船木庶務課長、荒木学校施設担当課長、柏木学務課長、中谷指導課長、 丸谷教育総合支援センター長、唐澤特別支援教育担当課長、 河内品川図書館長、齊藤統括指導主事、升屋統括指導主事、
その他	庶務課庶務係 担当者 3 名、策定支援受託事業者 担当者 2 名

1. 開会

2. 教育長挨拶

3. 委員紹介

4. 委員長・副委員長の選出

5. 議事

（1）審議の進め方・スケジュールについて

－事務局からの説明

⇒ 委員了承

（2）国・都・区における現況について

①教育振興基本計画について

②国・都の動向

③品川区における現況

－事務局からの説明

⇒ 委員了承

【主な意見】

(委員)

品川教育ルネサンスと教育振興基本計画の関係性について、現行の教育改革である品川教育ルネサンスは教育振興基本計画の中に含まれていくという理解でよいのか。

(事務局)

これまでの改革で培ったものを計画の土台として生かすこととし、品川教育ルネサンスで作上げた三つの柱という大きな仕組みの上に、未来に向けてどういった教育を進めていくかを教育振興基本計画で示していく。

(委員)

品川区教育大綱との関係について、教育大綱における方針に「学校教育の充実」があり、これを受けて教育振興基本計画を策定するものなのか。

(事務局)

教育大綱の基本理念を共有するものであるが、方針の一つひとつにとらわれるのではなく、これを踏まえながら、国や都の新しい考え方を参酌し教育振興基本計画を策定する。

(委員)

学校教育・幼児教育・家庭教育・文化財・図書館に関することを対象として教育振興基本計画を策定することであるが、青少年育成、文化芸術振興、社会教育を含むものではないのか、改めて確認したい。

(事務局)

今回の教育振興基本計画は、現在の品川区教育委員会に属する権限の中で具体的な方策を定めるものとする。ただし、教育委員会と区長部局は相互に連携を図っているので、教育振興基本計画の対象外の内容であっても、教育大綱に波及させるような提案等があれば委員会の中でご審議いただきたい。

(3) 品川区教育振興基本計画における施策体系案について

－事務局からの説明

⇒ 委員了承

【主な意見】

(委員)

私自身は地域事業を中心に活動し、特に学校でできない部分を担い、子どもの育成を図っている。区内13地区で約150事業を実施し、延べ約3万人の子どもたちが何らかの形で地域事業に参加している。学校でできないことを補い、地域で子どもたちを育てるというのが私どもの事業の在り方をよく踏まえながら、地域視点で教育振

興基本計画について考えていきたい。

(委員)

青少年委員として活動している。子どもたちはジュニアリーダー教室という事業をととして、小学生から大学生が縦割りで班を作り、意見を出し合いながら計画を立てて1年ごとに活動している。参加する子どもたちは、はじめは緊張しているものの、1年経過するととても成長し穏やかに過ごしている。地域活動と学校教育の両面から子どもたちを育てられるよう考えていきたい。

(委員)

私は小学校でPTA活動に携わっている。子どもが通う学校は、改築を経て学校規模が大きくなり、児童数が急増する中で、以前に比べ、保護者に対して区の考え方が伝わりづらくなったと感じている。こうした会議体を通じて教育について検討することは素晴らしいことなので、その結果を保護者の方々へどのように伝えていくかも一つの課題であると思う。

(委員)

今回の会議における説明は丁寧であったが、それでも分りづらい点があった。計画の位置づけ等、上手く図解にできれば思う。

私は中学校でPTA活動に携わっている。かつてはPTAの中に当たり前のように地域が含まれていたが、昨今は地域との関係性が希薄になったと感じる。PTAだけでなく地域も含んだコミュニティとして、学校との関わり方が変わらなければならない。そういった中でまずは大人が地域で繋がりを持ちながら、子どもの問題を顕在化させることがでると良い。

(委員)

私は幼稚園でPTA活動に携わっている。コロナ禍を経て、子どもと向き合う時間の大切さを改めて感じた。小学校に入るまではとても親子の共有する時間が自然にあり、親子ともに成長する時間となった。提案のあった施策体系案は良いと思うので、これに即した教育を、実効性をもって進めることができるよう考えていきたい。

(委員)

私は学校地域コーディネーターとして、モデル実施を開始した約10年前からコミュニティ・スクールを推進する立場で学校教育に関わってきた。現在、各学校に1名のコーディネーターがおり、学校と地域を繋ぐために毎日奮闘する中で、何を目的としているのか、どのような子どもたちを育てていくべきなのか、皆が葛藤や迷いを抱えている。教育振興基本計画において目指すべきビジョンが明確に掲げられるということは、コーディネーターとしてありがたい。子どもが家庭、地域、そして学校の中で育つ過程において、子どもの将来を見据え、学校の中で今何ができるのかをコーディネーターの立場から日々考え、教育振興基本計画に落とし込みたい。

(委員)

私は、今のライフワークとして、子どもだけでなく大人も含んだウェルビーイングを研究していることもあり、今回施策体系案で示された内容の重要性も理解していることから、その実現に向けて子どもたちのために考えていきたい。

(委員)

区の特徴ある教育施策が一通り定着してきた中で、これまでに区が取り組んできた施策が、新たな計画にどのように繋がり、どのように教員へ伝わっていくのか、とても関心がある。教員は、区の教育方針を実現しようと日々努力しているので、今取り組んでいることと、これから目指すビジョンがどのように結びついていくのか、しっかり学び、意見を出したい。本策定委員会の議論が様々な方々のウェルビーイングに結び付くよう考えていきたい。

(委員)

私は校長として2年程「ウェルビーイングを目指した学校づくり」を経営方針に掲げて取り組んでいるが、中々思ったようには進まず、難しい課題もある。教育振興基本計画についても同様に、新たに打ち出したビジョンに対し、受け手がどのように考え、動くのかという点を考えないとビジョンだけが先行してしまう。そういった点も意見を出し合いながら検討できると良い。

(委員)

校長として子どもたちを見ていて、学校の中で幸せを感じることももちろん大切だが、卒業後の子どもたちがウェルビーイングを実現していくための力を養わなければという思いはとても強い。

今回このビジョンを考えるにあたり、計画期間は5年間であるため、子どもたちの5年後の姿をしっかりと考える必要がある。教職員や保護者の方々に対し、このビジョンが実効性のあるものとして示すことができるととても良い。

(委員)

今後に向けて、幼稚園長の立場からは、幼児期の教育とその後の学校教育の連携がしっかりと位置付けられた計画にできると嬉しい。子どもたち1人ひとりの豊かな資質、能力の育成にあたり、自分の園の計画に落とし込みながら活用することができる実効性のある計画を策定したい。

(委員)

保育園長としての立場として、これまで様々な保育園で勤務してきたが、園によって小学校との連携に温度差があった。保育園、幼稚園、小学校の接続を見据えた計画となり、またどの学校も実現可能な基本方針となるよう意見を出していきたい。

(委員)

施策体系における基本的な方針のうち「学びを支える教育体制の確保」という方針の考え方の大切さを改めて感じた。品川区は、地域の方々との関わりを1番に推進してきた先進的な自治体であり、地域との関わりの中で学校を盛り上げてきた歴史がある。学校に関わる全ての人々がどうしたらより充実するのか、そういう視点をもって人を支えていく教育行政のあり方や仕組みを作ることにより学校がさらに充実し、その他の方針である「1人ひとりの資質・能力を育成する教育」とか、「誰1人取り残さないきめ細やかな教育」に繋がっていくのではないかな。

(委員)

今回の議事を通じて施策体系として大きな方向性をまとめることができた。今後は具体的な目標への落とし込みが主な検討事項となる。政策に直結する部分であり、こ

ここで議論して決めた内容が、すぐ次の具体的な政策に繋がっていくという意味では、教育大綱との棲み分けも出てくるのではないか。

また、私自身、この３月まで学事制度審議会に携わり非常に驚いたのが、品川区では子どもたちも含めた人口が増えているということである。他の自治体は少子高齢化で子どもが減り、学校をどのように維持していくかという課題に直面する中で、品川区はベクトルが異なる。人口増に伴う困難さもあるが、新しいことができるということを感じつつ、今後の策定委員会に臨むことができればと感じている。

6. 連絡事項

7. 閉会

以上